

心臓血管・消化器外科学

研修指導者名

井本 浩

メッセージ

皆さん、初めまして。私は鹿児島大学心臓血管・消化器外科学(旧第二外科)教授の井本浩(いもとゆたか)です。後期研修をめざす皆さんに当科をご紹介します。

我々の教室はその名が示す通り、大変幅広い疾患を扱う外科教室です。心臓血管外科では生まれたばかりの新生児から成人まであらゆる年齢層、あらゆる疾患を対象にしていますし、大動脈の緊急手術やステント治療も数多く行っています。また消化器グループは非常に難度が高いと言われる肝臓・胆道・膵臓の手術を中心に外科治療を行っています。一方、大学外では鹿児島市内をはじめ霧島市、薩摩川内市などに手術症例数の大きな関連病院がありますので、幅広い種類の疾患を数多く経験できます。大学と関連病院をローテーションすることにより外科専門医の取得、さらにはその先のサブスペシャリティの専門医資格の取得までスムーズに効率良く行えるのが若い人にとって大きな魅力と言えます。

最近外科医を目指す若い人が減少しておりますが、外科医の仕事は大変やりがいのある仕事であり今後益々その需要とステータスは上がっていくと思われまますし、若い人自身の中にも実は潜在的な外科希望者が多いということをお聞きします。恵まれた環境で専門医取得を目指して働きたい人には当科がお勧めです。もちろん入局、大学院進学、学位取得など各人の持つ将来の目標、夢の実現のためにも力強くバックアップすることをお約束します。

少しでも興味を持った方はとにかく我々に声をかけてみてください。

研修目標

医師は所属科あるいは専門領域の如何に関わらず、全人的な治療を行えることが要求されています。外科系医師の原点に立ち返り、診療科横断的な基本的思考、手技、処置を重視する研修を積み、その先にそれぞれが目指す専門分野への道を開拓します。外科に興味を抱く医師に対して外科専門医として必要な知識と技術を効率よく習得させ、さらにその先のサブスペシャリティー(心臓血管外科、消化器外科)専門医への円滑な誘導を目標とします。

期間中は多くを心臓血管外科・消化器外科専門医修練施設にて、心臓・大血管、末梢血管、消化管、肝胆膵などの一般的な開胸・開腹下の手術の他、低侵襲治療としての鏡視下手術、ステントグラフト治療など多数の症例で研修を行い、経験を重ねていきます。

研修可能技能

初期臨床研修を終え、次なるステップを目指している若手医師へ、自らが希望する診療分野の専門的な知識・技術の習得と将来像を重視しながら、自己研鑽し教育できるシステムを設けました。外科専門医の資格取得に必要な基本的な手術手技、各種検査と治療手技、患者管理法、ならびに救急医療に必要な知識と技術、さらに希望に応じてサブスペシャリティー専門医取得に必要な知識と技術の習得が可能です。

【心臓血管外科領域】小児先天性心臓疾患手術、弁置換・形成術、CABG、大動脈置換術(胸部・腹部)ステントグラフト内挿術(胸部・腹部)、FPバイパス、PTA(血管内治療)など

【消化器外科領域】肝切除術、膵頭十二指腸切除術、胆嚢摘除術、胃切除術、腸切除術、食道切除術など(開腹・鏡視下とも)。シミュレーターを用いた臨床前訓練も積極的に行っています。



取得できる専門医資格技能

- ・外科専門医（後期修練期間中に希望に応じてサブスペシャリティー専門医取得のためのトレーニングも可能）
- ・心臓血管外科専門医 ・消化器外科専門医 ・脈管専門医 ・ステントグラフト実施医 ・血管内治療医 など

特 徴

近年、医療は専門分化が著しく、若手医師の専門医志向が強くなっています。このことは、一方で医師と患者のコミュニケーションを大切にしたい、全人的な幅広い診療能力の欠如を生じる結果につながると思います。専門的な診療に当たる医師を含めて、全ての医師にこれらの分野でのプライマリ・ケアの対応能力が求められ、このような考えのもと新たな医師臨床研修制度が導入されました。初期研修終了後、外科に興味を抱く、あるいは専門性を追求したいと考える医師に対して、まずは外科専門医として必要な知識と技術を効率よく習得し、その先のサブスペシャリティーへの円滑な誘導こそが、後期臨床研修で最も重要な研修の目標だと考えます。当科(鹿児島大学大学院 心臓血管・消化器外科学(旧第2外科))では、すでに初期臨床研修を終え、次なるステップを目指している若手医師へ、自らが希望する診療分野の専門的な知識・技術の習得と将来像を重視しながら、自己研鑽し教育できるシステムを設けました。

医師は所属科あるいは専門領域の如何に関わらず、全人的な治療を行えることが要求されています。過去において、外科系医師は頭頸部、胸部・腹部のすべての内臓疾患や、筋骨格系にわたり、広範な診断・治療に携わってきました。しかし現在は臓器別に専門分化し先進医療が注目され、これを目指す医師が増えているのも事実です。専門分化、特殊技能に対する偏重が顕著になった今こそ、外科系医師の原点に立ち返り、診療科横断的な基本的思考、手技、処置を重視する研修を積み、その先にそれぞれが目指す専門分野に進んでもらいたいと思います。

志とハートのあるみなさんを鹿児島大学大学院 心臓血管・消化器外科学(旧第2外科)後期臨床研修医として迎えることを心から楽しみにしています。

研修参加条件

卒後臨床研修修了者

研修施設

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、鹿児島市医師会病院、鹿児島医療センター、県立宮崎病院
霧島市立医師会医療センター、川内市医師会立市民病院、藤元総合病院、相良病院

研修期間

外科専門医取得に必要な最短年限は、3～4年と考えています。よって研修期間は3～4年間としています。サブスペシャリティー専門医資格申請には、外科専門医資格取得後さらに数年間のトレーニングが義務づけられています。その後も継続して研修することが可能です。外科専門医取得後、大学院に入学し学位（博士）取得へ進むための研究を4年間行います。学位はサブスペシャリティー専門医と平行して取得することも可能です。



研修プログラム

後期臨床研修の第1の目標が外科専門医取得であり、外科専門医修練カリキュラムの内容を実践します。

◆ 1年目（卒後3年目）

大学病院あるいは研究教育関連施設において基礎研修を行います。

◆ 2年目（卒後4年目）：研修 1年目の知識・技術習得の上に 2年目以降の研修を行います。

研究教育関連施設あるいは大学病院において基礎研修を継続しつつ、専門性の高い診療研修を行います。

これまでに手術経験、学会発表、論文発表など外科専門医受験に必要な資格を得ます。

※ 予備試験（筆記試験）の受験資格を得る

◆ 3年目（卒後5年目）

研究教育関連施設あるいは大学病院において基礎研修を継続しつつ、専門性の高い診療研修を行います。

後期研修 2年目（卒後4年目）で予備試験を合格し、到達目標を満たせば、認定試験となる面接試験を受験することができます。

◆ 《4年目》（卒後6年目）

外科専門医試験の到達目標が充足できなかった場合の予備期間。

研究教育関連施設あるいは大学病院において基礎研修を継続しつつ、専門性の高い診療研修を行います。

研修病院の症例実績（年間手術症例）

	心臓血管	消化器・甲状腺・乳腺
大学病院	481例	104例
鹿児島医療センター	474例	383例
県立宮崎病院	292例	
藤元病院	186例	
鹿児島市立病院	203例	417例
鹿児島医師会病院		825例
霧島医療センター		397例
川内市民病院		285例
相良病院		669例
合計	1636例	3080例

現在研修中の医師数

	大学内(うち大学院生の数)		大学外
卒後3年目	2	(0)	2
卒後4年目	0	(0)	2
卒後5年目	1	(0)	2

プログラムの募集人員及び選考

【募集人員】 制限なし

研修と大学院の関係

外科専門医取得(初期研修終了後3～4年)後、順次希望に応じて大学院へ入学し、各専門分野(心臓血管、消化器)の研究及び学位(博士)取得を行います。研究は大学内の臨床研究施設または基礎講座で共同研究として行います。研究テーマによっては国内の専門施設へ留学して行うことも可能です。研究終了後、関連するテーマに対する研鑽を積むため海外へ留学することもあります。

処 遇

大学病院の医員としての待遇

研修終了後の進路

サブスペシャリティー(心臓血管外科、消化器外科)専門医取得のためのトレーニング(大学病院および関連施設において)を行うか、大学院に入学し学位取得へ進む道もあります。学位(博士)はサブスペシャリティー専門医と平行して取得することが可能です。

指導医・専門医

日本外科学会専門医：13名・指導医：4名
日本胸部外科学会指導医：1名
日本心臓血管外科学会専門医：6名・修練指導者：2名
腹部ステントグラフト指導医：2名
胸部ステントグラフト指導医：1名
血管内治療医：2名 日本脈管学会専門医：1名
消化器がん外科治療認定医：2名
日本がん治療認定機構暫定教育医：1名
日本消化器外科学会専門医：2名・指導医：1名
日本消化器病学会専門医：2名
日本肝胆膵外科高度技能専門医：1名
日本プライマリケア認定医・指導医：1名

プログラムに関する問い合わせ窓口

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 心臓血管・消化器外科学(旧第二外科学)

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号

電話：099-275-5368

FAX：099-265-8177

E-mail：nigeka@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

